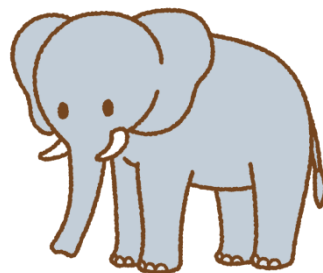




「犬は人間の百万倍以上の嗅覚を持っている」  
そんな風に昔、教わった記憶がありませんか？  
情報の出どころは19世紀のフローカという  
解剖学者からのようです。(お医者さんの世界  
では超有名な人です)



ところが最近の研究ではそうでもないのでは…と考えられています。  
2004年 ノーベル賞が、嗅覚遺伝子の解明に対して与えられました。  
その結果、嗅覚遺伝子の数が嗅覚細胞数、ひいては嗅覚の強さに関係して  
いると考えられるようになり、イヌはヒトの数倍程度しか多くないそうです。  
ちなみに地上最強はアフリカゾウだそうです。



前回嗅覚障害の原因と代表的な病気をお話しましたが「**中枢性**」を  
掲載する余裕がありませんでしたので、今回はそちらを。

中枢性嗅覚障害の原因疾患として最近話題になってきているのが、  
パーキンソン病、アルツハイマー型認知症などの神経疾患です。例えば  
パーキンソン病では90%以上の人に嗅覚障害があるともいわれており、  
パーキンソン病と別の紛らわしい病気の区別に役立つそうです。また、  
パーキンソン病はゆっくり進行してく病気ですが、手の震えや歩行障害など  
の主症状が出てくる数年前より嗅覚障害がでるそうです。

パーキンソン病やアルツハイマー型認知症など神経疾患にともなう嗅覚  
障害は現時点では有効な治療法がありません。しかしながら嗅覚障害が、  
それらの早期発見につながります。(しばしば障害の自覚がないようです。)  
そして早期治療が病気の進行を遅らせることができるといわれております。

では耳鼻いんこう科では嗅覚障害に対して、  
どんな検査をするのでしょうか？

まずは副鼻腔炎がないか鼻の中をよく見ます。  
内視鏡検査やCT検査もおこないます。嗅覚の検査と  
して一般的なのは「**アリタミンテスト**」といい、左図の  
ようにニンニクの匂いがする薬を注射して、  
「匂っている時間」を測定します。

